

読図のヒント 解答 資料図 (p.114~146)

p.114 地形 (1)

㉔ 侵食・堆積によってできた地形 ② 河川をつくる小地形

㉕ 扇状地

扇頂

㉖ 河岸段丘

⊗ 地点：洪水

⊙ 地点：崖崩れ

㉗ 氾濫原

かつての川の跡

㉘ 台地

かつては森林が広がっていたが、その後宅地開発が進み、現在は住宅も立地している。

p.117-118 世界の地形

① 世界の地形

ユーラシアプレート、インド・オーストラリアプレート

③ 世界の地震と火山

プレートの境界や地溝・海溝・海嶺が連なる場所などにみられる。

p.119 気候 (1)

① 世界の気候区と海流

赤道近くの低緯度地域は熱帯で熱帯雨林やサバナが広がり、北回帰線付近は砂漠気候で砂漠がみられる。緯度が高くなるにつれて樹林が広がる温帯気候や亜寒帯気候となり、さらに高緯度になると寒帯に属してツンドラがみられるようになる。

p.121 気候 (2)

⑦ 世界の気象災害のようす

赤道に近い低緯度の水温が高い海上で発生し、中・高緯度方向に向かって進む。

p.123-124 日本の地形・気候

②日本の地勢

東日本では南北方向にのび、高い山が多く険しい。西日本では東西方向にのび、東日本よりも標高は低い。

⑤気候区と季節風

日本海側の気候である上越（高田）では冬の降水量が多く、雪が多く積もる。／太平洋側(内陸)の気候である松本では夏も冬も降水量が比較的少ないが、積雪は多少ある。など。

p.125-126 日本の自然災害と防災

㊦全国地震動予測地図 2018年版

確率の大小はあるが、日本全国どこでも大きな地震が起きる可能性があり、過去に地震が起きていないところでも、起きる可能性がある。

㊦ 地図から読み解く防災－長野市－

前半：氾濫平野で旧河道に近い場所で浸水が予想される。反対に標高が高い段丘面では浸水しづらい。

後半：省略

p.128 地球環境問題

㊦ 未来の地球環境シミュレーション

ヨーロッパ周辺：亜寒帯（Df）の範囲がせばまり、温帯（Cfa）の範囲が広がる。スペイン周辺では乾燥帯の範囲が広がり、砂漠気候（BW）になるところも出てくる。

日本周辺：日本では温暖化の影響で温帯の範囲が広がり、大陸部では乾燥帯が拡大する。

p.129-130 食文化と食料問題

㊦ かたよる食料の需給

アフリカは全体に穀物自給率が低く、栄養不足人口の割合が高く、食料支援を受けている国が多い。また、穀物自給率が100%を超えている国（パキスタンなど）でも、栄養不足人口の割合が比較的高く、食料支援を受けている場合がある。

㊦おもな農産物の輸入先

1位…アメリカ合衆国

2位…中国

3位…オーストラリア

p.131 農業・林業・水産業

㊦米・小麦の生産と移動, ㊧米・小麦の生産国と輸出

米は降水量が多く温暖な地域で生産量が多いが、小麦は比較的降水量が少ない地域や冷涼な地域でも生産量が多い。

p.133-134 世界と日本の鉱工業のうごき

㊨鉱産資源の分布

ブラジル, オーストラリア, 南部アフリカなど, 分布に偏りが見られる。

㊩日本の工業生産

輸送機械の都市は, 豊田市周辺・東京周辺・太田市周辺などのように特定地点に集中する傾向がある。電気・その他機械は, 塩尻市, 富山市などのように太平洋ベルトに含まれない場所でも分布する場合もある。

p.136 世界と日本の資源・エネルギー問題

㊪エネルギー資源の分布と移動

油田が多い地域: 西アジアから北アフリカ, カスピ海周辺からロシア及び中国, インドネシア周辺, アメリカ合衆国 (メキシコ湾岸) から南米の海岸部, 北海周辺

炭田が多い地域: 東ヨーロッパからロシア及び中国, インド, 豪州東部, 北アメリカなど

原油の移動: 中東からインド・東アジア・欧州・北米, ロシアから欧州・中国, カナダ・メキシコ・ベネズエラからアメリカ合衆国

石炭の移動: オーストラリア, インドネシアから東アジア・インド, 南アフリカからインド, コロンビア・ロシアから欧州

p.137-138 世界経済の規模と貿易の進展

㊫1人あたり GNI とおもな国・地域の GDP

高い国: おもに北アメリカ, ヨーロッパに多いほか, 東アジア (日本, 韓国) やオーストラリア・ニュージーランド, サウジアラビアなど中東の産油国にも分布する。

低い国: アフリカに多いほか, 南アジア, 西アジアなどにも分布する。

㊬世界貿易の相互関係

EU, 中国, アメリカ合衆国 の順

㊭日本の貿易

タイ, インドネシア, フィリピン, オーストラリア から3つ

㉠ アメリカ合衆国の貿易

カナダ，中国，ラテンアメリカ・カリブ海諸国，EU から3つ

㉡ 中国の貿易

地域：ヨーロッパ

理由：近隣の国同士で行う域内貿易がさかんだから。

p.139-140 世界経済の成長と地域経済統合

㉢ 実質経済成長率とおもな地域経済統合

ASEAN

㉣ EUの発展と課題

東欧の1人あたりGNI低い国から，ドイツやスイスのような1人あたりGNIの高い国へ移動している。

p.141-142 世界と日本の人口問題

㉤ 増える世界の人口

ヨーロッパ：19～20世紀前半

南北アメリカ：20世紀以降

アフリカ・アジア：20世紀後半以降

㉥ 日本がかかえる人口問題

前半：合計特殊出生率が高い地域では老年人口の割合も高い傾向がある。

後半：人口密度が高い都市部では，合計特殊出生率も老年人口の割合も低い傾向がみられる。

p.145-146 交通・通信の発達と世界・日本の観光

㉦ 航空路線の発達と人の移動

北アメリカ州，ヨーロッパ州，東アジア，東南アジア，南アジア，西アジア，など

㉧ 通信の発達と情報化の進展

変化：100人あたり20～40から80人以上へと増加した。

国：マレーシア，イギリス，フランス，オーストリア，デンマーク，アラブ首長国連邦 から3つ

㉨ 訪日外国人の入国地と訪問先

近くに外国人入国数の多い空港があり，外国人旅行者に人気の観光地も多い。